

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (令和5年 3月7日)	総合評価 (令和5年3月14日)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○生徒が自ら課題を 発見し解決する力 を育み、主体的に 学ぶ意欲を高める ことを目指した不 断の授業改善の実 施等、これからの 時代に求められる 資質・能力の育成 に向けた教育活動 の充実	① 70分授業を活用し 「主体的・協働的な学 習」にすべての教科・ 科目で取り組むととも に、新しい学習指導要 領をテーマに研究授業 を行う。 ① 1学年においては新学 習指導要領の施行と1 人1台PCの活用した 授業改善を行う。 ②新学習指導要領に基づ いた教育活動を通じて 生徒の資質・能力の向 上をはかる。 ②SSH事業を通じて課 題研究や国際理解教育 の充実を図り、理系人 材の育成や高大接続に つなげる。	①今年度の本校の教育 課題を踏まえた授業 改善テーマを設定し、 全教科で授業研究・ 改善を行う。 ①生徒一人ひとりがP Cを活用できる授業 を展開できるよう、 ICTを活用した授業 改善を行う。 ②単元と評価の計画に より生徒の学力・資 質をあげ評価を見直 す。 ②アドバンストコース の設置や研究インター ンシップの実現など、 高大接続やSS課題探 究の授業内容の改善 を行う。	①授業改善テーマは本 校の教育課題を踏ま えたものであったか。 各教科において授業 改善のための授業 見学や教科会等の取 組がなされたか。 ① 1人1台PCを活用 した授業を展開でき たか。 ②各教科・科目で適 正な単元と指導の計 画を策定できたか。 ②アドバンストコース の設置や研究インター ンシップを通じて高 大接続の実現やSS課 題探究の授業内容の 改善ができたか。	① 1人1台PCの導入に 合わせた授業改善テ ーマを設定し、授業 見学や教科会、公開 研究授業等を実施し た。 ②新学習指導要領に基 づき1学年の単元と 評価の計画を適切に 策定することができ た。 ②アドバンストコース の設置や大学・専門 機関との連携等を推 し進め、SS課題探究 の授業内容の改善を 行った。	①ICT活用の充実や 教育課程・授業時 間の見直しを行 い、更なる授業改 善を図る。 ②新2学年の単元と 評価の計画を新学 習指導要領に基づ き策定する。 ②高大接続開発に向 け、アドバンスト コースや外部連携 の充実を図る。	①研究授業は70分 の授業時間の中で 協働的な学習や1 人1台PCの活用を 目的とした適切な テーマであった。 ②新学習指導要領 に基づいた授業を 行っていることが よく伝わった。 ②アドバンストコ ースの設置や高 大接続で青山学院 大学等との連携は 評価できる。	①70分授業に より、ICTの活 用や協働的な学 習等の授業改善 は進んだ。一方 で70分授業で は週あたりの授 業数が少ないこ とが課題である。 ②2学年以降の 単元と指導の評 価計画の策定が 必要。 ②高大接続を より推進する 必要がある。	①次年度より、 50分授業と100 分授業を併用し、 週あたりの授業 回数を確保し、 基礎学力の定着 と探究力の育成 できるよう日課 表を検討してい く。 ②引続き新学習 指導要領に基づ き、単元と評価 計画を策定して いく。 ②SSⅡのアドバ ンストコースを 充実させ、青山 学院大学や麻布 大学との高大接 続を深化してい く。
2 生徒指導・ 支援	○校訓「礼節・信 義・根性」、モット ー「文武両道・切 磋琢磨」を基盤と するバランスの取 れた教育活動の展 開を通して、獲得 した知識・技能を 活用し、多様な 人々と協働的に活 動し、責任を持っ て社会に関わろう とする人材の育成	①KSCの取組を通じ、 生徒の主体的な活動 を支援・評価するこ とで、リーダーとし ての達成感を醸成 する。 ①行事や部活動を通 じて生徒の責任感・ 社会性を育む。 ②ケアが必要な生徒 の状況を把握し、 組織的な生徒支援 と教育相談体制を 構築する。	①KSCについては、 3年間の継続性を 念頭に、グループ と学年で協力しな がら、それぞれの プログラムのさら なる充実を図る。 ①行事や部活動で の生徒の主体的な 活動を支援する体 制を構築する。 ②学年を中心に生 徒の状況を把握し、 共有することでケ アの必要な生徒 への教育相談体制 の充実を図る。	①それぞれの学年 におけるKSCの プログラム内容を 検討し、さらなる 充実が図れたか。 生徒のリーダー としての達成感を 醸成できたか。 ①生徒たちが主 体的に行事や部活 動の活動ができる 支援体制を構築 できたか。 ②学年やグループ 等で生徒に係る情 報を共有し、ケア の必要な生徒に 対してSCやSSW と連携した適切な ケアをすることが できたか。	①KSCは内容を充 実させ、1学年で 宿泊研修、2、3 学年では課題解 決活動を実施し、 リーダーとしての 達成感を醸成で きたか。 ①SSCの生徒を 中心に体育祭及 び文化祭を運営 し、生徒たちの 主体性と協調性・ 社会性を育む体 制を構築すること ができた。 ②心のケアが必 要な生徒を把握 し、SCと連携し ることができた。	①成果はあった が、KSCの目的 を整理し、より 効果的に充実 したプログラム 内容を計画・ 実施する。 ①文化祭の日程 が成績処理等 の業務と重なり、 教員の負担が大 きかった。次 年度は、行事予 定を調整すること により改善す る。 ②次年度に向け SC及びSSW との連携の強化 を模索してい く。	①コロナ禍の中、 様々な工夫を して生徒たちの 活動の機会を 創出し、教員が 生徒をよく導い ている。 ②引続き心のケ アの必要な 生徒を把握し、 組織的に対応 していくよう お願いしたい。	①KSCや文化 祭等、生徒 たちが成長 する機会を 創出すること ができたが、 教員の負担 感がかなり 大きい。 ②ケアの必 要な生徒を 迅速に把握 していく必 要がある。	①グループ間 で調整し、 年間行事予 定を見直し、 より円滑に 行事等を実 施できる校 内体制を構 築していく。 ②コーディネ ータを中心 にSCやSSW と連携し、 チームで 生徒のケア ができる体 制を構築す る。
3 進路指導・ 支援	○大学やその後 につながる学び の継続性と、社 会で求められる 資質・能力を意 識した進路設計 を指導し、主体 的で、継続的・ 計画的に努力す る力の育成	①SSHの各種事業 や課題探究、高 大連携講座を活 用し、学びの 継続性を意識 したキャリア プランにつな げる。	①SSHの各種事業 や課題探究、高 大連携講座を生 徒に提供すると ともに、TA (ティーチン グ・アシスタ ント)の活用 システムを構 築する。	①生徒のSSH 各種事業への 参加希望が 増えたか。生 徒のアンケート で満足度が 向上したか。	①宿泊研修やゼ ミナール、高 大連携講座な どのSSH各種 事業には多く の生徒が参加 し、アンケート の満足度も各 項目で高い 数値であった。	①生徒の希望 進路の実現や 理数系人材の 育成に向けて 各種事業の継 続・拡充を図 る。	①生徒の探究活 動が総合型選 抜等で実際の 進路につな がるような ロールモデ ルがあると より有効 である。	①SSHの取 組が必ずし も進路実現 に直結して いない。高 大接続の具 体的な仕組 みが必要。	①SSHでの探 究の成果を活 用し、総合 型選抜につ なげていく 仕組みを キャリアグ ループと学 習グループ を中心に 検討してい く。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (令和5年 3月7日) 成果と課題	総合評価(令和5年3月14日)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	○大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力を意識した進路設計を指導し、主体的で、継続的・計画的に努力する力の育成	②大学での学びにつながる意識を持たせることにより、最後まで粘り強く努力を続ける態度を育成し、難関大学・国公立大学合格者数を増やす。	②様々な機会を捉えて生徒・保護者へ適切な情報提供や助言を行う。 ②計画的かつ有効的に模擬試験を実施し、結果分析をグループ内でまとめ、職員全体に情報の提供をすることでオンラインを含めた進路指導を行う。 ②学ぶこと・働くことへの意識を高め、第一志望校合格に結びつくように進路支援体制を構築する。 ②インターンシップについて受け入れ先事業所との連絡調整のシステムを構築する。 ②キャリアパスポートの活用と情報の蓄積に関するシステムの整理をする。	②難関大学・国公立大学の合格生徒数が前年度より増えたか。 ②模擬試験の結果等を用いて、本校の現状を認識し共有し、進路指導に活かすことができたか。 ②各種事業等に生徒が積極的に参加できたか。生徒のニーズに応じた情報提供ができたか。 ②インターンシップの参加者をサポートできたか。 ②キャリアパスポートの蓄積システムを整理し、活用することができたか。	②年3回の進路集会を実施し、推薦型の受験で慶応大学や東京外語大の合格が出ている。 ②模擬試験の結果等を用いて、グループ内で研修会を実施するなど本校の現状を認識し共有し、進路指導に活かすことができた。 ②情報提供は問題なく行えた。 ②インターンシップの参加が少なく、今回は事業所の関係で実施できなかった。 ②本校の現状とキャリアパスポートの実態に乖離があり十分な活用ができていない。	②次年度以降、総合型選抜の情報等を提示し、面接指導等により一層充実させていく。 ②グループ内で研修会を実施するだけでなく職員全体に本校の現状を認識し共有できる研修会を実施する。 ②情報の提供に関してICT技術を活用し迅速で正確な情報の提供を行う。 ②本校独自の事業所の開拓を検討する。 ②キャリアパスポートを活用するとともに、LHR等の年間計画の中にキャリア形成を考える時間を組み入れる。	②インターンシップは本気でやろうとする1週間では期間が短い。まとまった時間ですっきりと取組む方が受入れ側も含めた双方にとって有益である。ジェンダーや環境に興味を持つ生徒が多いのでその分野も探すとよい。 ②キャリアパスポートをより活用できる仕組みを検討してほしい。	②難関大学・国公立大学への合格生徒数が前年度より減少傾向である。 ②インターンシップの希望者がほとんどいない。 ②キャリアパスポートの活用が十分ではなかった。 ②インターンシップやキャリアパスポートを活用し、生徒の進路意識の醸成に生かす仕組みを検討していく。	②進路集会や面談等で生徒の進路意識を高め、模擬試験の結果をフィードバックすることにより生徒の個々の進路実現に向けた力を醸成していく。 ②教員全体で進路情報を共有し、進路指導力を向上させる。 ②インターンシップやキャリアパスポートを活用し、生徒の進路意識の醸成に生かす仕組みを検討していく。
4	地域等との協働	○地域から期待され信頼される進学校として、地域のニーズに応え地域社会に責任を持って進んで関わろうとする人間の育成を目指した、連携・協働による教育活動の推進	①学校運営協議会制度を活用し、地域のニーズを意識し、開かれた学校づくりに取り組む。 ②SSH事業の成果普及や、生徒の活動による成果を積極的に発信する広報に取り組む。	①学校運営協議会を計画的に開催し、本校の教育活動への意見を集約し、改善につなげる。 ①ホームページや学校説明会を充実させ、本校の特色を積極的に発信する。 ②科学オリンピックや外部発表会等への積極的な参加を促す。	①学校運営協議会を適切に開催し、教育活動の改善につなげることができたか。 ②研究成果を英語で発表する機会を拡充できたか。 ②科学オリンピックや外部発表会等に参加する生徒が増えたか。	①コロナ禍の中、学校運営協議会を2回開催することができた。 ①ホームページを見直し、本校の教育活動の発信に努めた。 ②科学オリンピックに加え、課題研究コンテストに応募する生徒が増加し、入賞を果すなど成果があがった。	①今年度の学校運営協議会での意見を反映し、さらなる教育活動の改善を図る。 ②SSH事業に係る生徒の活動の機会及びその成果の発信の促進に引き続き努める。	①学校運営協議会の委員を通じて、高大接続を推進することができた。 ②海外留学等、異文化交流は有意義である。このような機会を今後も続けてほしい。	①学校運営協議会を3回開催することが困難であった。 ①学校ホームページを見直し、改善することができた。 ②生徒の活躍の場を創出できた。	①行事を精選し、書面開催やオンラインも活用し、学校運営協議会から意見をもらう機会を確保できるように検討していく。 ②科学部を中心に科学オリンピック等に参加する生徒がより増えるよう促していく。
5	学校管理 学校運営	○生徒の多様な活動を引き出しつつ、安全安心に生活するための学習環境整備や、生徒と向き合う時間の確保や事故の未然防止のための働き方改革に向けた、組織的で機動的な学校運営。	①生徒が安心して活動できる耐震工事や学習環境の整備を推進する。 ①防災教育により学校全体の防災意識の向上を図る。 ②教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒の事故を未然に防ぐ体制を構築する。	①耐震工事を計画通り、本校舎に戻った時の学習環境を整備する。 ①生徒が自ら命を守れるよう防災教育を実施する。 ②ICT環境を整備することにより、情報を共有し、校務の円滑化を図る。 ②教員の働き方への意識改革を促し、長時間勤務の軽減に努める。	①耐震工事が計画通り終了し、安心して学習できる環境を整備できたか。 ①DIGや避難訓練を通じて生徒が主体的に自らの命を守る防災意識を高めることができたか。 ②職員室のICT環境を改善し、校務を円滑に遂行する環境を整えることができたか。 ②教員の長時間勤務を軽減することができたか。	①耐震工事を計画通り進め、生徒が安心して学ぶ環境を整備することができた。 ①DIGや避難訓練を適切に実施し、防災意識を醸成することができた。 ②ICT活用WGを立ち上げ、校務を円滑に遂行できるようICT環境を整備した。 ②ICT等を活用し、情報を共有することで教員の長時間勤務の軽減に繋げることができた。	①設備等が古いため、引続き適切な改修等を行い、環境を改善する。 ①地震等の災害に備え、防災意識の醸成し、マニュアルを見直していく。 ②ICT環境をさらに充実させ、校務の円滑化を図る。 ②次年度の行事予定や授業時間を見直し、教員の負担が減るよう調整することにより、長時間勤務の軽減を図る。	①耐震工事は終わったが、引続き生徒の学習環境の整備をしてほしい。 ②授業時間や行事予定はどれが正解かわからない。探究と同様、模索しているところが評価できる。柔軟に変更することが大切である。	①体育館や部室棟などの整備を引き続き依頼し、生徒の学習環境の改善に努める。 ②教員の長時間労働は改善傾向にあるが、多忙感は強い。	①体育館や部室棟などの整備を引き続き依頼し、生徒の学習環境の改善に努める。 ②行事や授業時間を見直すとともに、ICT環境を整備し、教員が働きやすい環境を整え、教員の長時間勤務を軽減し、負担感を減らす仕組みを構築していく。